

第 49 回クラシックを楽しむ会

2017 年 11 月 12 日（日）16:00～（4 時間 30 分、休憩除く）

タイトル：楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」（ワーグナー）



第 1 幕第 3 場、歌合戦の前日、12 人のマイスターが集めて会合を開く。中央右にポークナー、右端はザックスとパンをかじるベックメッサー。

会場等 : バイロイト音楽祭 2017 年（プレミエ）

2017 年 7 月 25 日

バイロイト祝祭劇場

楽団等 : バイロイト祝祭管弦楽団

バイロイト祝祭合唱団

指揮 : フィリップ・ジョルダン

演出 : バリー・コスキー

出演 : ミヒャエル・フォレ（ザックス）

ギュンター・グロイスベック（ポークナー）

ヨハネス・マルティン・クレンツレ（ベックメッサー）

クラウス・フロリアン・フォークト（ワルター）

ダニエル・ベーレ（ダーヴィット）

アンネ・シュヴァーネヴィルムス（エファ）

ヴィープケ・レームクール（マグダレーネ）

その他



バイロイト祝祭劇場



バイロイトのヴァンフリート荘（ワーグナーの邸宅）

あらすじ

若い騎士ワルターはニュルンベルクの街で美しい娘エファと恋に落ちる。しかし歌合戦で優勝しなければ結婚できない。ワルターは街一番のマイスタージンガー（親方歌手）ザックスの特訓を受け、歌合戦で見事優勝。恋と芸術を手に入れる。

第 50 回クラシックを楽しむ会（予告）

タイトル：バレエ「眠りの森の美女」（チャイコフスキー）

12 月 10 日（日）17 時 30 分開場、18 時上映開始

ボリショイ新劇場 2011 年。大改修に 6 年の歳月を要した豪華なこけら落とし公演。チャイコフスキー 3 大バレエ「眠りの森の美女」をグリゴロヴィチが新演出。ザハーロワの気品あふれるオーロラ姫、米国人初のプリンシパル、ホールバーグの王子は必見！

1 月はヘンデルの歌劇「アルチーナ」、2 月はお休み、3 月以降、「アイダ」などを予定。

【時と場所】

16世紀半ば、ドイツのニュルンベルク

【主要人物】

ハンス・ザックス（靴屋の親方、男やもめ）

ファイト・ポグナー（金細工師の親方、エファの父）

ジクストゥス・ベックメッサー（市の書記、中年の独身男）

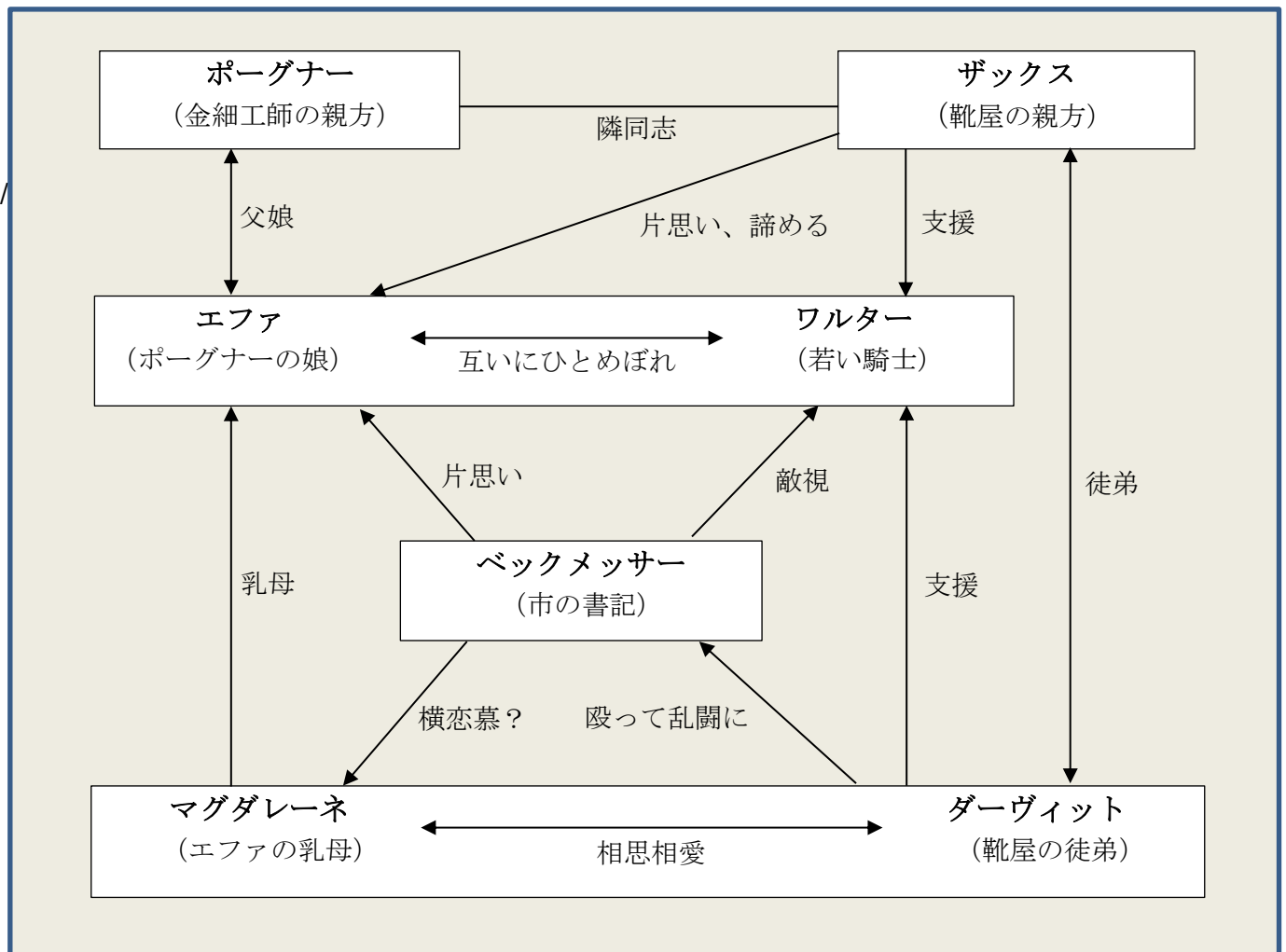
ワルター・フォン・シュトルツィング（フランケン地方出身の若い騎士）

ダーヴィット（ザックスの徒弟）

エファ（ポグナーの娘、歌合戦の「賞品」にされる）

マグダレーネ（エファの乳母）

マイスタージンガーたち（毛皮屋、板金屋、パン屋、錫細工師、香料屋、仕立屋、石鹸屋、靴下屋、銅細工師）と夜警。その他、同業組合の市民とその妻たち、職人および徒弟とその娘たち、民衆。



本公演、第1幕への前奏曲中に登場する人物と楽劇中の人物の関係

- 犬を連れた*ワーグナー → 靴屋の親方ザックス
- ピアノからでてくる*ワーグナー → 若い騎士ワルター
- ワーグナーの2度目の妻コジマ → ポグナーの一人娘エファ
- ユダヤ人指揮者レヴィ → 市の書記ベックメッサー
- コジマの父リスト → 金細工師の親方ポグナー
- 女中 → エファの乳母マグダレーネ

*ピアノから続々でてくるワーグナーは、子供時代、青年時代（→ワルター）、中年（→ザックス）。ワーグナーは大の犬好きだった。

【第1幕】

第1場 聖カタリーナ教会の中。この街にやって来た騎士ワルターは、金細工師の親方ポグナーの娘エファと出会い、二人は互いに惹かれ合う。ワルターは、エファの乳母マグダレーネから、求婚するためには、明日、ヨハネ祭の歌合戦で優勝しなければならないが、歌合戦はマイスタージンガーでなければ参加できないと告げられる。マグダレーネは、ワルターに歌の作法を教えるよう、恋人（靴職人の親方ザックスの徒弟）のダーヴィットに依頼する。

第2場 ワルターはダーヴィットに、いきなりマイスターになりたいといい、マイスターの「歌の規則」を学ぶが、あまりの煩雑さに辟易する。

第3場 組合の会合が始まり、ポグナーは、芸術の誉れのため、歌合戦の優勝者に全財産と娘エファを与えると宣言（ポグナーの演説）。マイスターたちの議論の結果、エファは拒否できるが、優勝者以外の人間とは結婚できないということで合意。ポグナーはワルターを昇格試験希望者としてマイスター一同に紹介。ワルターは歌合戦に出場するため、「冬の日の静かな炉端で」と自己紹介する。審査担当（記録係で、市の書記）のベックメッサーもエファとの結婚を狙っていて、現れたライバルを敵視。ワルターは「資格試験の歌」を歌い始めるが、自らの感性に従うままの奔放な歌いぶりにマイスター一同困惑。ベックメッサーは厳格に採点。騒然となる中、ワルターに失格を宣告。

【第2幕】

第1場 通りに面したポグナーとザックスの家の前。マグダレーネは、ダーヴィットからワルターが歌試験に落ちたと聞き、落胆して帰る。

第2場 ポグナーは娘を賞品にする計画に自信が持てず、ザックスに相談しようかと迷う。

第3場 ザックスはワルターの歌の捉えがたい魅力を歌う（ニワトコのモノローグ）。

第4場 エファは、ザックスのところへ歌試験の結果を探りにくる。エファは、組合の偏狭さを批判したザックスの本心を見抜けず、憤然と立ち去る。ザックスは、エファのワルターへの想いを確信し、エファへの想いを断とうとする。

第5場 エファはワルターに出会う。ワルターはエファへの情熱とマイスターたちへの怒りから、エファと駆け落ちしようとする。二人の会話を聞いていたザックスは、明かりを点けて仕事を始め、「ザックスの靴作りの歌」でさりげなく駆け落ちを邪魔する。

第6場 ベックメッサーが現れ、エファの身代わりのマグダレーネと知らずセレナーデを歌いはじめる。ザックスは、「歌の規則」に逸脱する度に靴底をハンマーで叩いてその誤りを指摘して邪魔する。

ダーヴィットが、マグダレーネに言い寄るベックメッサーに殴り掛かり、街中の大乱闘になる。

【第3幕】

第1場 翌朝、ザックスの仕事場。ザックスは昨夜の大騒動を思い起こし、エファへの思いを断ち、恋人たちの役に立とうと心に決める（迷妄のモノローグ）。

第2場 ワルター入ってきて、夢を見たと言ったザックスに話す。ザックスはその夢を素材にして歌にするように勧め、「歌の規則」を伝授し「ワルターの夢解きの歌」の最後を残して完成し、二人は退場。

第3場 ベックメッサーが現れて歌が書かれた紙を見つけ、ザックス作の求婚の歌だと勘違いしてポケットに入れる。戻ってきたザックスは「泥棒にならぬよう」書き付けを進呈するといひ、ベックメッサーはザックスの歌なら優勝は間違いないと喜んで立ち去る。

第4場 婚礼衣装を着たエファとワルターは幸せそう。ワルターは「夢解きの歌」の最後の部分を歌う。マグダレーネとダーヴィットが現れ、ザックスはワルターの歌を「聖なる朝の夢解きの調べ」と命名。それぞれの思いを5重唱で歌う（愛の洗礼式）。

第5場 ヨハネ祭が行われるペグニッツ河畔の野原。親方たちや民衆が集まり（同業組合の行進）、続けて（徒弟達の踊り）の後、マイスタージンガーたちの入場。ザックスが現れると、民衆は起立し「ヴィッテンベルクの鶯」を合唱して称える。歌合戦が始まり、ベックメッサーが、ザックスからもらった歌を歌うが、支離滅裂で大失敗（ベックメッサーの本選歌）。ザックスはこの歌の真の作者ワルターを紹介。ワルターは「朝はばら色に輝き」（ワルターの栄冠の歌）を歌って優勝。ワルターは、ポグナーからマイスタージンガーの称号譲り受けを、マイスターへの怒りから拒否するが、ザックスは伝統芸術を継承する大切さを説く（ザックスの最終演説）。一同この結末を導いたザックスと「ドイツ芸術」を讃える合唱が響く。

出演



ミヒヤエル・フォレ (ハンス・ザックス) ギュンター・グロイスベック (ポークナー) J.M. クレンツル (ベックメッサー) K.F. フォークト (ワルター) A.シュヴァーネヴィルムス (エヴァ) ダニエル・ベーレ (ダーヴィット) W. レームクール (マグダレーネ)

ミヒヤエル・フォレ (1960-) は、ドイツ南部黒い森地方出身のバリトン歌手。ヨーロッパの主要流歌劇場で活躍中。コンサート歌手としても世界の一流指揮者、オーケストラと数多く共演している。

ギュンター・グロイスベック (1976-) は、オーストリア・ニーダーエスターライヒ州出身。ヨーロッパの主要歌劇場、メトロポリタン歌劇場、ザルツブルク音楽祭、バイロイト音楽祭で活躍中。

ヨハネス・マルティン・クレンツル (1962-) ドイツのアウグスブルク生まれ。モーツァルト、プッチーニ、ロッシーニなどの主役を務める。バロック・オペラなどにも精力的に出演、コンサート活動でも活躍中。

クラウス・フロリアン・フォークト (1970-) ドイツ生まれ。ホルン奏者として活躍する傍ら声楽を学ぶ。メトロポリタン歌劇場デビュー後はヨーロッパの主要歌劇場で活躍中、ローエン格林のタイトルロールの成功で知られ、数年先まで引く手あまたの人気歌手。本公演でピアノからでてくる子供の一人が彼の息子。

アンネ・シュヴァーネヴィルムス (1967-) はドイツ・ルール地方生まれ。アルト、メゾソプラノを経て現在はリリック・ソプラノ歌手。2015年には新国立劇場の「ばらの騎士」元帥夫人を歌っている。

ダニエル・ベーレ (1974-) ドイツ、ハンブルク生まれの作曲家、テノール歌手。トロンボーン、作曲を学んだ。ウィーン国立歌劇場など一流歌劇場に出演するかたわら、初めてリリースした歌曲CDがメトロポリタン歌劇場の年間ベストCDに選ばれた。今秋のバイエルン国立歌劇場来日公演「魔笛」に出演予定。

ヴィーペケ・レームクール (1983-) ドイツ、ブレーメン近郊の都市に生まれた新進気鋭のアルト歌手。

フィリップ・ジョルダン (1974-) はスイス、チューリッヒ生まれの指揮者。現在、パリ国立オペラの音楽監督、ウィーン交響楽団首席指揮者。2020年からはウィーン国立歌劇場の音楽監督に就任する。

バリー・コスキー (1967-) オーストリア、メルボルン生まれの劇場監督、歌劇場演出家。2014年に国際オペラ賞の最優秀監督賞を受賞。バイロイト音楽祭史上、初めてのユダヤ系演出家として本公演を演出した。



P. ジョルダン バリー・コスキー

本公演の演出について

「ニュルンベルグ裁判」とオペラの舞台である「ニュルンベルグ」をワグナーのドイツ礼賛にかけている面白い演出。(吉岡さん)

この楽劇の主題

16世紀ドイツの芸術・思想における保守と革新の争いである。美しいエヴァを花嫁にする権利をかけて、旧来の規則を教条主義的に信じる市の書記・ベックメッサーと、自由な感性の若い騎士・ヴァルターが歌合戦で争い、開かれた意識を持つ靴屋のマイスター、ザックスがワルターを応援する。

ユダヤ系演出家バリー・コスキーの演出

ワグナーの反ユダヤ主義が反映されたとされる楽劇。ワグナーが親しくしていた実在のユダヤ人指揮者レヴィを、劇中のベックメッサーに重ねてユダヤ人に設定し、劇中のザックスを「ニュルンベルグ裁判」の証人席で「弁明」させることで、反ユダヤ主義がナチを生んだと断罪する。

第1幕への前奏曲の舞台は、ワグナーが居住していた実在のヴァンフリート荘の応接間を再現し、妻のヨジマの日記に記載されている通り、父のリストとユダヤ人指揮者レヴィが訪れた。

資料

第 1 幕への前奏曲について

「マイスタージンガー」の前奏曲はオペラ屈指の名曲で、4 時間半の長大なオペラのダイジェスト版になっている。3 つの有名なライトモチーフ（特定の人物やイメージを表現する旋律）は、いずれも単純な「ドミソの和音」。前奏曲の終盤では、この 3 つの旋律を（バッハを連想させる）対位法（複数の旋律を、それぞれの独立性を保ちつつ互いに調和させて重ね合わせる技法）で演奏する。3 つとも馴染みの旋律だから耳をすまして聴くと楽しめる。

「マイスタージンガーの動機」



「ダビデ王の動機」*、マイスタージンガーの守護聖人 *「組合の動機」、「行進の動機」とも



「愛の動機」、若い二人の



※ 上記の「動機」以外に、有名な「芸術の動機」、「苦悩の動機」、「陽気の動機」など、全体で 60 程ある。

ワーグナーと実在の人物

リヒャルト・ワーグナー（1813 - 1883）生涯ユダヤ人の義父が実父かもしれないと疑っていた。青年時代、貧困と借金に苦しむ。女優のミンナと結婚したが莫大な借金を踏み倒して二人で夜逃げ・密出国するなど各地を転々とし、初期のオペラを成功させた。メンデルスゾーンの死後、「音楽におけるユダヤ性」を書いてユダヤ人の芸術性を非難。ドイツ三月革命に加わって国を追われ、リストを頼ってスイスに逃亡。スイスで数人の女性と恋愛、豪商の支援者の妻マティルデ・ヴェーゼンドク（詩人）と W 不倫して、ミンナと離婚。国王ルートヴィッヒ 2 世に招かれるまでは借金を重ねて各地を転々とした。リストの娘で指揮者ハンス・フォン・ビューローの妻コジマと不倫して同棲、娘エファとイゾルデが生まれた後に再婚（65 歳と 33 歳）、息子ジークフリート（三人とも彼の楽劇に登場する名前）も生まれた。1868 年の「マイスタージンガー」初演をハンス・フォン・ビューローが指揮、貴賓席に国王ルートヴィッヒ 2 世とワーグナーが並び大成功。ワーグナー最後の楽劇「パルジファル」の初演はユダヤ人のヘルマン・レヴィに指揮させた。



ワーグナー (1862)

フランツ・リスト(1811 - 1886) ピアノ演奏会では女性ファンが次々に失神、多くの女性と恋愛関係に。作家・ジャーナリストのマリー・ダグー伯爵夫人と駆け落ちして約 10 年間同棲。生まれた 3 人の子供の 1 人がコジマ・リスト。マリーと別れた後、演奏旅行中に、ロシア貴族と別居中の大地主カロリーネ侯爵夫人と出会い、その後 13 年間同棲。教皇にカロリーネの離婚無効を宣告され、50 歳の誕生日の結婚式を断念。



フランツ・リスト(1858)



少女コジマ・リスト